INTERVIEW

公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター長 中村正和先生



みんなの健康を、 みんなで守る

聞き手:山田隆司 地域医療研究所所長

疫学研究の道へ

山田隆司(聞き手) 今日は中村正和先生のお話を伺います。中村先生は昨年度まで大阪がん循環器病予防センターに勤務しながら、地域医療振興協会の監事を務められていましたが、この4月からヘルスプロモーション研究センターを指揮していただくことになりました。先生は自治医科大学で私と同期の3期生ですが、卒業してからこれまで携わってきた仕事について、ご紹介いただけますか。

中村正和 卒業してからこれまで歩んできた道の中で、予防の分野が中心ではありますが、いろいろなことを経験してきたので、その経験を生かして集大成という気持ちで、4月からヘルスプロモーション研究センターで仕事をさせていただくことになりました。よろしくお願いします。

私は1980年に自治医大を卒業しました.もともとへき地医療をやりたいと思って自治医大に入ったのですが、出身の大阪府はへき地がないので救急医療へ進もうと思いました.ところが初期研修で行った当時の大阪府立病院で、救急医療の研究に携わることになりました.当時の救急部長の研究テーマが、救急患者さんの重症度を救急隊員が判定できるようなスコアを開発するということで、その手伝いをすることになったのですね.

山田 実際の救急を学んだというよりは、救急の研究をしたということですか。

中村 初期研修の一環として救急を学びながら研究 もした, ということです. 大阪市の消防局と一 緒に1ヵ月, 大阪市内に運ばれる全救急患者の

234(2) 月刊地域医学 Vol.29 No.4 2015

調査をしました. 救急隊員が私たちの開発した スコアを付け、それがどれぐらい妥当だったか という予後調査も救急隊がやってくれました. そのデータを解析して、スコアで重症度を予測 できるかという検証をしました.

2年間の初期研修終了後は、疫学の勉強をしてから救急に進もうと考えて、大阪府立成人病センターの調査部へ行くことにしました。当時、救急に進みたい卒業生は多かったので、卒業生全体からみたら、疫学や予防をテーマにする人間もいたほうがいいのかなと思って、結果として公衆衛生分野の仕事をすることになりました。わが国では、タバコ対策がその重要性にもかかわらず、取り組みが非常に遅れていたので、そのための研究をしながら実際の対策に取り組んできたというのがこれまでの仕事です。

- 山田 そうすると成人病センターに入ってからは、 今年の3月までずっと成人病センターにいらっ しゃったのですか?
- 中村 ところがそれからまたいろいろあって……, 大阪は4年間の研修が認められているので2年 間は府立病院で救急の研修,2年間は成人病セン ターで公衆衛生の研修ということで,その後成 人病センターに就職する予定でしたが,当時大 阪では保健所の医師が足りないという問題が あったので,保健所に出ることになって,3年 間保健所に赴任しました.

山田 どこの保健所ですか?

- 中村 門真保健所というところです. 保健師さんが 10人ぐらいと放射線技師さんもいる保健所で, 3年間, 保健予防課長としての仕事をしました. その間も成人病センターを兼務していたので, 門真市で妊娠届を出した妊婦さんの追跡調査をして, 旦那さんがタバコを吸っていると低体重 児のリスクがどのくらい上がるかという研究もしていました.
- 山田 でも現場の保健所へ行くと、最初考えるより も管内のいろいろな雑務などが多いのではない ですか.
- 中村 そうですね. 業務もですが, いわゆる人事管 理が……. いろいろ勉強にはなりましたけどね.
- 山田 保健予防課というのはどんな仕事があるので すか.
- 中村 当時の保健予防課の主な仕事は母子保健事業のほか、感染症対策、精神疾患の対応や地域ケアなどですね. 結核の審査や結核患者さんの管理、接触者の検診など、結核の業務は保健予防課として印象に残っています. そのほか、小規模企業の健診もやっていました. 公衆衛生全般のことを現場で学んだ3年間でした.

その後、成人病センターと隣接して新しく設立された大阪がん予防検診センターに移りました。1987年から2001年までの14年間、同センターの調査部でがんの予防対策に取り組みました。

タバコ対策に取り組む

山田 そこで本格的にタバコ対策に取り組んだのですね. 中村 禁煙プログラムの開発やがん検診の啓発普及 をしていました. 当時, 日本でタバコの問題に専 任で取り組む医者はいなかったので, プログラム 開発から始めましたが, そのために行動科学の勉 強もしました. 行動変容をどう促すかについて問

題意識を持ちながら、行動科学の理論やヘルスカウンセリング、ヘルスコミュニケーションの方法などについて独学で勉強しました。プログラムの普及のために指導者のトレーニングの手法も開発しました.

山田 スモーカーライザーもその頃開発されたので